

2009 年度受託研究概要報告

ジェルカバーの商品化

研究メンバー

見寺貞子	デザイン学部ファッションデザイン学科教授
大田尚作	デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
柊伸江	芸術工学研究所研究員

委託者

特定非営利活動法人ひょうご・まち・くらし研究所

研究概要

プロダクトデザイン学科大田ゼミ卒業生が制作したどうぶつをモチーフにしたぬいぐるみ、クッション、ジェルカバーをもとに、デザインや素材、設計を新たに検討し、作業所の授産品として商品化に向けた検討を行った。

<内容>

ジェルカバーが商品として市場に流通するデザインの確立と製作作業性の簡易化。

1. ジェルカバーのデザイン
2. 作業所への製作指導
3. 原価計算

研究成果

ジェルカバーという商品自体が既に大手企業が先行して販売をしているため、それらの先行商品と作業所授産品をどのように差別化できるかを考え、手作りならではの温かみのあるデザイン、量産ではできない凝った細工を取り入れたデザインを検討することにした。

大学で行った試作でも縫製加工が難しいことは予想されたが、作業所でどこまでクオリティーの高い商品が作れるのかを検討するため、あえて難易度の高い商品に取り組んでいただいた。神戸市内の4作業所に試作を請け負っていただき、うさぎ8枚、トラ5枚、くじら3枚、くま2枚の計18枚の試作が完成した。完成度は高く、十分に付加価値のある商品となった。

しかし、作業所からのヒアリングにより、利用者が出来る行程が少ない（スタッフの負担増）、製作に時間と手間がかかる、という大きな課題が見つかった。これは、デザイン性と生産性が相反する関係にあることをあらわした結果であり、デザインにこだわればこだわるほど、生産性は下がる傾向にある。

今後は、作業所や販売先と、付加価値の高い商品として、手間暇がかかっても作る魅力はあるか、値段を上げ、数を限定してでも売りたいかどうかを検討し、商品化か否

かの判断されることを提言する。

<成果物>

1. 商品化へ向けたジェルカバーのデザイン提案
2. 商品化へ向けたジェルカバーのサンプル
3. 原価計算書
4. 縫製加工担当施設への行程分解書（指示書）
5. 作業所にて制作した試作サンプル



写真1 試作サンプル（トラ）



写真2 試作サンプル（くじら）



写真3 試作サンプル（うさぎ）